



平成30年度 活動報告

千葉大学 総合学生支援センター



平成30年度 活動報告書 目次

ふれあいの環とは ————— 1

平成30年度活動年表 ————— 2

今年度の活動 ————— 3

- 合同説明会, 新入生サポート会
- ウェルカムパーティー, キャンパスクリーン
- 富岡運動会
- セタウィーク, 車椅子講習会
- ボランティア報告会&カタリベカフェ
- 防災研修, 研修合宿
- 田中神輿祭り
- バリアフリーマップ
- 東北ボランティアツアー
- 駅伝, PEP-NET
- 大学祭
- 縁 Joy 東北
- Universal Festival
- 年賀状プロジェクト, 書き初め大会
- スキー 3.11を想う
- 通年活動
- ちばシティサバイバルキャンプ
- 平成30年度大学祭
- 縁 Joy・東北2018
- 学外研修活動
- 平成30年度ボランティア活動状況

資料編 ————— 21

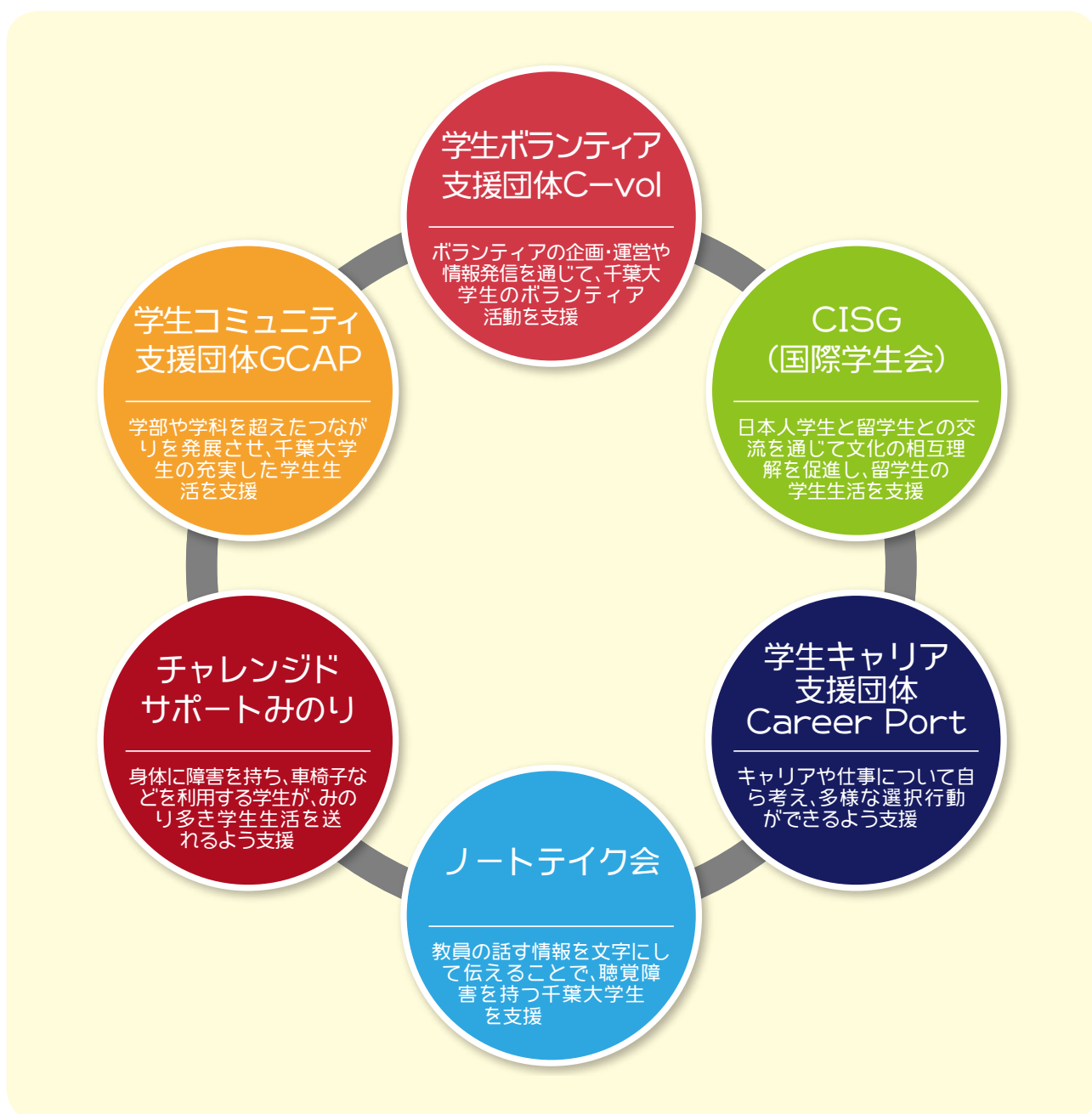
- ボランティア報告会スライド
- 大学祭展示用スライド

「ふれあいの環」とは

「ふれあいの環」は、学生による学生支援活動（ピアサポート）やボランティア活動をはじめ、さまざまな活動を展開しています。

学生と学生、学生と教職員が相互にふれあいながら、イベントなどを通じて総合的な人間力を涵養することを目的に設立されました。

「ふれあいの環」では活動趣旨の違う6つの団体が活動しています。



平成30年度活動年表

年	月	日	内容
平成30年	4月	3,4日	【ふれあいの環6団体合同】新入生ガイダンスで活動紹介
		3,4,6日	【GCAP】新入生サポート会を開催
		6,9日	【ふれあいの環】6団体合同説明会を開催
		13日	【CISG】ウェルカムパーティーを開催
	5月	25,26日	【ふれあいの環】富岡小学校運動会を支援
	6月	25日	【ふれあいの環】夏季キャンパスクリーン活動に参加
		28日	【CISG】第51回ユニバーサルフェスティバルを開催
	7月	2~6日	【ふれあいの環】セタウィークを開催
		3日	【GCAP,C-vol】ボランティア報告会&カタリベカフェを開催
		11日	【みのり】車椅子講習会を開催
		21日	【ふれあいの環】暑中見舞いプロジェクトを実施
	8月	9日	【C-vol】防災センター研修
		28,29日	【ふれあいの環6団体合同】研修合宿を実施
	9月	8日	【ふれあいの環6団体合同】ふるさと田中神輿祭りに参加
		20,21日	【ふれあいの環6団体合同】第8回東北ボランティアツアーを開催
	10月	9日	【ふれあいの環6団体合同】千葉大学学長杯駅伝に参加
		5日	【CISG】ウェルカムパーティーを開催
		27,28日	【NT会】PEPnet シンポジウムに参加
	11月	3,4日	【ふれあいの環6団体合同】千葉大学祭に出展
		17日	縁 Joy 東北に参加
	12月	5日	【ふれあいの環6団体合同】冬季キャンパスクリーン活動に参加
		13日	【CISG】第52回ユニバーサルフェスティバル開催
		19日	【GCAP,C-vol】ボランティア報告会&カタリベカフェを開催
平成31年	1月	10日	【ふれあいの環6団体合同】年賀状プロジェクトを実施
		11日	【GCAP】書き初め大会を実施
	2月	1日	【ふれあいの環6団体合同】富岡小学校豆まき集会を支援
	3月	11日	【C-vol】「3.11を想う」を開催

6 団体合同説明会

日 時：平成 30 年 4 月 6 日、9 日
場 所：総合学生支援センター 2 階
主 催：ふれあいの環

4 月初旬に、ふれあいの環 6 団体合同で団体説明会を行いました。主に新生を対象として、ふれあいの環の活動を知ってもらうこと、ピアサポートに興味を持ってもらうことを目的としています。

団体ごとにブースを設置し、来場した新生は各団体の話を直接サポーターに聞くことができます。



新生サポート会

日 時：平成 30 年 4 月 3 日、4 日、6 日
場 所：総合学生支援センター 2 階
主 催：GCAP

4 月に「新生サポート会」を開催しました。大学は単位の取得方法や課外活動が高校と異なるため、戸惑ってしまう新生は少なくありません。そうした新生を先輩である学生スタッフがサポートするのが「新生サポート会」です。

例年 4 月に学生コミュニティ支援団体 GCAP が実施しており、今年も多くの新入生が来場しました。新生からは履修についての相談が最も多く、次いでサークルやバイトなどの学生生活について。また、留学や各種資格についての質問もありました。



ウェルカムパーティー

日 時：平成 30 年 4 月 13 日、10 月 5 日
場 所：ライフセンター
主 催：CISG

4 月と 10 月に CISG がウェルカムパーティーを開催しました。ウェルカムパーティーとは、今学期に新しく千葉大学へ入学・編入した留学生にあてた歓迎会で、すでに千葉大学に在籍している学生との交流を促すことを目的としています。

4 月と 10 月ともに、様々な国から来日した留学生や元々在籍していた千葉大生など 150 人以上が集まりました。



キャンパスクリーン

日 時：平成 30 年 6 月 25 日、12 月 5 日
場 所：千葉大学西千葉キャンパス

ふれあいの環の学生が、キャンパスクリーン活動に参加しました。キャンパスクリーン活動とは、千葉大学が主催する構内清掃活動です。夏は雑草の除去、冬は落ち葉掃きを行いました。

一緒に参加している教職員の方々とも交流させていただき、非常に有意義な活動となりました。



富岡運動会

日 時：平成 30 年 5 月 25 日、26 日

場 所：福島県双葉郡富岡町

5 月に、福島県富岡幼・小・中学校合同運動会を支援しました。今年では三春町で再開していた富岡小学校三春校と、本年 4 月から富岡町にて再び開校された富岡校との合同開催となりました。



このボランティア参加する学生には、事前研修を実施しました。富岡町出身で教育学部教授の片岡洋子先生にお越し頂き、富岡町の基本的な情報や震災からの流れ、子ども達の状況などを解説して頂きました。

運動会前日となる 25 日には、校舎見学や児童との交流を行いました。運動会当日は、競技の準備や審判などの運営補佐を行いました。また、学生も赤白の 2 チームに分かれ、競技への参加や応援などで、運動会を盛り上げました。

運動会支援も今年で 7 回目となりました。富岡小学校とはしっかりと絆が深まっています。



セタウィーク

日 時：平成 30 年 7 月 2 日～6 日

場 所：総合学生支援センター 1 階

主 催：ふれあいの環

セタウィークは、総合学生支援センター 1 階の一角にセタの笹と短冊を設置し、センター利用者が自由に短冊の記入・飾り付けをする企画です。

千葉大学の学生や教職員の方々にも季節を感じていただくとともに、願い事を文字に起こし自分と向き合う機会を提供することを目的としています。

企画終了時には、利用者によって 230 枚の短冊が飾られました。願い事は勉強に関するものから恋愛や健康に関するものまで様々でした。



車椅子講習会

日 時：平成 30 年 7 月 11 日

場 所：千葉大学西千葉キャンパス

主 催：みのり

2018 年 7 月 11 日、千葉大学 総合学生支援センター 2 階で車椅子をより深く知ることを目的として、講習会を開催しました。講師として千葉県立保険医療大学 作業療法士の吉野智佳子先生を迎え、千葉大学の学生と教職員合わせて 20 名程が参加しました。

前半は講義が行われました。内容は臨床視点からの身体障害についての基礎知識、車椅子利用者への接し方、車椅子の取り扱い方などです。講習会の後半は、車椅子に乗る、押してみるなどの車椅子体験や、体圧分散クッション・体圧分布測定器などの車椅子にまつわる専門機器の体験会でした。

参加者は実際に体を動かしながら、車椅子利用者支援の様々な側面を学びました。今後も定期的開催し、車椅子への理解を広めたいと思います。



ボランティア報告会&カタリベカフェ

日 時：平成30年7月3日,12月19日
場 所：総合学生支援センター2階
主 催：C-Vol, GCAP

「ボランティア報告会」と「カタリベカフェ」をふれあいの環にて開催しました。

「ボランティア報告会」は、ボランティア経験のある学生が自らの体験を語る講演会です。ボランティアに興味のある学生を対象としたイベントで、経験談を聞いてボランティアへの意欲を高めてもらうこと、未経験者の不安を解消することが主な目的です。



7月は2名の学生が、12月は3名の学生が発表しました。ボランティアも、教育関係・福祉関係・震災など様々な活動があり、それぞれ特徴や魅力があります。

ボランティア経験者も、自分が未経験の分野の体験談を聞くことで、ボランティアについての学びを深めることができます



「カタリベカフェ」は、あるテーマのもとで参加者同士が語り合うイベントです。学部・学年、学生・教職員の枠を越えて様々な価値観を持つ人々が語り合い、考えや意見を共有することを目的としています。

7月のテーマは「ボランティアの魅力とは?」、12月は「youは何しにボランティアへ?」でした。

千葉県西部防災センター研修

日 時：平成30年8月9日
場 所：千葉県西部防災センター
主 催：C-Vol

災害などの緊急時、適切に対応ができるよう、松戸市にある千葉県西部防災センターにて防災研修会を行いました。

震度7の大地震や風速30mの暴風の体験、消火器を使った消火練習などを行いました。普段はできない新鮮な体験を通して、災害時の状況や正しい対応の仕方を学ぶことができました。



研修合宿

日 時：平成30年8月28日、29日
場 所：千葉県鋸南町

顧問の下永田先生とともに鋸南町の合宿所で研修合宿を行いました。

合宿初日には、サポーター同士の理解促進やプレゼンテーション能力の向上を目的としたプレゼンテーション大会が行われました。2日目には、鋸山登山を実施しました。登頂の達成感をサポーターや先生と共有し、より一層親睦が深まりました。



第10回ふるさと田中神輿祭りに参加

日 時：平成30年9月8日
場 所：柏の葉キャンパス駅前ロータリー
主 催：ふるさと田中みこしまつり実行委員会

ふるさと田中みこし祭りにふれあいの環の学生が参加しました。田中みこし祭りは柏市のお祭りで、毎年千葉大学柏の葉キャンパスの目の前(柏の葉キャンパス駅前ロータリー)で行われています。ふれあいの環は4年前から、柏市への貢献を主な目的とし、お神輿の担ぎ手として参加させていただいています。お祭りを通して地域の方と交流することもでき、充実した時間となりました。



バリアフリーマップ作成

日 程：通年
主 催：みのり

チャレンジサポートみのりでは、車椅子を利用しているなど、移動に手助けが必要な学生のキャンパスライフをサポートするため、大学構内のバリアフリー情報を紹介するマップを制作しています。主にスロープや多目的トイレ、自動ドアなどをまとめています。

制作にあたっては実際に車椅子を使用、または車椅子使用者とともに大学構内を回り、スロープが利用できるか、設備が利用可能かを調査します。スロープがあっても介助無しでは上れない急な斜面や、車椅子が入る幅のないエレベーターなど、「ある」と実際に「使える」とことは別問題となってくるため、車椅子を使った実践や、使用者の所見などを大切にしています。



第8回東北ボランティアツアー

日 程：平成30年9月20日、21日
場 所：福島県双葉郡富岡町
参加者：学生34名、教職員5名
日 程：事前研修 9月10日
事後研修 10月11日

9月20日・21日で第9回となる千葉大学東北ボランティアツアーを開催しました。今回は2017年4月に避難指示が解除された福島県富岡町で活動を行いました。

○事前研修

ボランティアツアーを安全かつ有意義なものとするを目的として、ツアー参加者に対して事前研修を実施しました。健康管理や、富岡町の被災状況などについて理解を深めます。また一緒に作業をする班員や活動を補助する教職員との顔合わせも行いました。



○(旧)富岡第二小・中学校校舎見学

ツアー初日である20日は、現在閉鎖されている富岡第二小・中学校を見学しました。

富岡第二小・中学校は約100名の児童が通う学校で、震災当日も通常通り授業が行われていました。震災が起きると児童は校庭へ避難し、教室に荷物を取りに戻ることもなくそのまま保護者に引き渡されました。

そしてすぐに学校の体育館は地域の避難所として使用され、多くの近隣住民が集まりました。しかし翌日の早朝に強制避難の指示が出たため全町民は町外へ避難し、校舎は放置されました。その後現在に至るまで清掃や整理の作業はほぼ行われておらず、校舎は当時の姿をそのまま残しています。

○富岡小中学校（富岡校）訪問

4月から再開された富岡町立小中学校【富岡校】を訪れ、授業の様子を見学しました。富岡校は現在、小学校14名、中学校4名、預かり保育4名の児童が毎日元気に過ごしています。校長である岩崎先生には「震災後の富岡町立小中学校の歴史」についてレクチャーしていただきました。

また初日の夜には一日の振り返り会を行い、見学を通じて各自が感じたこと・考えたことを共有しました。



○児童との交流、学校の整理清掃

2日目は富岡校にて児童たちと交流しました。午前中は全学年合同体育に参加し、ドッチビー対決を行いました。その後子供達の給食にもお邪魔し、楽しくお昼ご飯をいただきました。

午後はプール底上げ台の撤去や体育館の清掃作業を行いました。学校の教員数も多くはなく、なかなか手が回らないとのことでした。



○事後研修

ボランティアツアー終了後別日にて事後研修を行いました。参加者は日常生活に戻った上で改めてツアーでの体験を振り返り、ボランティアや被災地についての考えを深めました。

千葉大学学長杯争奪駅伝

日 時：平成30年10月9日
場 所：千葉大学構内

第13回千葉大学学長杯争奪駅伝に参加しました。3チーム15人が参加し、5人で計11kmを繋ぎました。この日のために体力づくりを積み重ねてきた人もおり、練習の成果を存分に発揮していました。また、来年に向けてさらなる成長を互いに誓いました。



日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

日 時：平成30年10月27,28日
主 催：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク
場 所：早稲田大学（東京都新宿区）

ノートテイク会が第14回日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワークの主催するシンポジウムに参加しました。このシンポジウムは全国の大学における聴覚障害学生支援の実践に関する情報を交換することで、今後の聴覚障害学生支援体制を発展させることを主な目的とするものです。

初日は、聴覚障害学生や支援学生、コーディネーターなどが聴覚障害学生支援のあり方について話し合うワークショップが設けられ、ノートテイクの学生も、議論に参加しました。2日目には参自らの支援体制について発表するセッションが開催され、ノートテイク会もポスター発表を行いました。



大学祭

日 時：平成30年11月3日、4日
場 所：総合学生支援センター1階

ふれあいの環の活動を紹介するとともに、東日本大震災の風化防止に貢献するため、千葉大学祭に出展しました。今年度は、「活動展示」「復興応援物産展」「ずんだパフェ販売」の3ブースでした。



○活動展示

C-volが毎年行っている防災教育活動「千葉シティサバイバルキャンプ (CCSC)」の様子を紹介しました。各プログラムの様子と、CCSCで用いた実物を展示し、来場者に私たちの活動をより深く知ってもらえるよう工夫しました。また、ふれあいの環6団体の活動について紹介したパネルも展示しました。

○復興応援物産展

震災や豪雨災害など、災害記憶の風化防止のため、被災地から発信されている名産品を販売しました。岩手県南三陸町の「ちんあなごの傘持ち手カバー」や、ままだおる(福島)やずんだ餅(宮城)などの東北3県の銘菓、7月豪雨で被害を受けた広島から因島八朔ゼリーなどを取り寄せました。



○テント企画

仙台名物のずんだを用いたパフェを販売しました。「ずんだ」は千葉大学祭の中でも珍しく、連日大盛況でした。

縁 joy 東北

日 時：平成30年11月17日
場 所：Qiball (きぼーる)

復興イベント「縁 joy 東北」にC-volが参加しました。このイベントは千葉県で東日本大震災復興支援活動をしている団体が集まって行うもので、C-volも毎年参加させていただいています。

今年はクイズラリーやクラフトのブースを運営し、大人も子どもも楽しめるような企画を実施しました。



○舟のクラフト体験

薄い発砲スチロールの板で舟を作ります。船の後ろに歯磨き粉を付けて水面に浮かべると動き出します。船は飾り付けや色塗りが自由にできるため、子どもたちは夢中になってオリジナルの舟を作って遊んでいました。

○東北クイズラリー

会場を回ってもらうための一つの仕掛けとして、東北に関するクイズラリーを行いました。クイズを解きながら会場内を歩くので、来場者と参加者との交流を生むきっかけ作りにもなりました。

Universal Festival

日 時：平成30年6月28日、12月13日
場 所：千葉大学けやき会館 大ホール
主 催：CISG（千葉大学国際学生会）

Universal Festival（以下UF）とは、千葉大学に在籍する留学生たちが自国の歴史・文化などについて発表することで、学内外問わず多くの方々に国際理解を深めていただくことを目的としているイベントです。CISGが年に2回開催しています。

6月は、ドイツ、メキシコ、タイ、インドネシア、韓国からの留学生が、12月はルーマニア、ドイツ、ウズベキスタンからの留学生が発表を行いました。発表の後にはレセプションパーティがあり、留学生が母国料理を振る舞いました。



マンスリーウィークエンド

日 時：月1回
場 所：千葉市少年自然の家
主 催：千葉市少年自然の家

千葉市少年自然の家でのボランティアを今年も継続的に行わせていただいています。中心となっているのは、毎月行われる家族キャンプ「マンスリーウィークエンド」のお手伝いです。

一緒に野外体験を行うとともに、レクリエーションを行うなど他のボランティアにもつながる活動をさせていただいています。

今年はちばシティサバイバルキャンプに千葉市少年自然の家のスタッフさんに参加いただきました。これから連携をさせていただき、活動の幅を広げていきたいと考えています。



年賀状・暑中見舞いプロジェクト

日 時：平成30年7月、平成31年1月
主 催：ふれあいの環

日頃からお世話になっている教員・職員の方々に向け、夏には暑中見舞いを、1月には年賀状を製作しました。製作した年賀状は、直接教職員の方々にお渡ししました。



書初め大会

日 時：平成31年1月11日
主 催：GCAP
場 所：総合学生支援センター 2階

GCAPが書き初め大会を開催しました。

半紙、墨、筆などを設置し、総合学生支援センターを利用している学生が自由に書かことができます。

年始の趣を感じて頂くとともに、1年の抱負や目標などを考える機会を提供することが目的です。



富岡小学校 冬の体験活動および豆まき集会支援

日 時：平成31年2月1日
参加者：学生8名、教職員3名
場 所：ファミリースノーパーク ばんだい×2

富岡小学校の冬の体験活動・豆まき集会に参加しました。この行事は富岡校で毎年行われており、千葉大学も8回目の参加となります。

午前の体験活動では、子どもたちとともにスキーを学びました。昼食も児童と一緒にいただきました。

午後の豆まき集会では学生が鬼に扮して登場し、児童は思い切り豆を投げました。



3.11を想う

日 時：平成30年3月11日
主 催：C-Vol
参加者：学生25名、教職員5名
場 所：総合学生支援センター2階

「3.11を想う」は震災の風化防止を主な目的として、毎年3月に開催しています。東日本大震災に思いを馳せ、参加者ひとりひとりが震災について、これからの自分達について考える機会を提供しています。



2018年は大規模な自然災害が多発したこともあり、様々な議論が展開されました。

ボランティア報告会 発表スライド

発表者：小谷和也（法政経学部3年）

非行少年への学習支援 ボランティア

学生ボランティア支援団体Cーweb 小谷和也

報告に当たり

- ◆ このボランティアには守秘義務があります。これから話す内容は、私が体験したボランティアを一般化抽象化したものであり、特定の個人への学習支援に絞ったものではありません。
- ◆ 2つの目的
 - ① このボランティアに興味のある人に向けて、家庭裁判所が実施するボランティアの概要・やりがいを知ってもらう。
 - ② このボランティアに興味のない人に向けて、非行少年の実態を知ってもらう。

ボランティアの概要

- ◆ 内容
 - 非行少年への学習支援活動
 - 非行少年と一緒に家庭裁判所活動
 - 非行少年と一緒に農業体験
- ◆ 所属
 - 千葉少年友の会学生会員
- ◆ 日程
 - 不定期
- ◆ 交通費のみ支給。保険は千葉少年友の会に加入する際に加入。

非行少年？

- ◆ 少年法3条に規定
 - 1項 非行少年：14歳以上で罪を犯した少年
 - 2項 触法少年：14歳未満で罪に触れる行為をした少年
 - 3項 虞犯少年：将来罪を犯す危険性のある少年
(家出を繰り返す、暴力団関係者とのつきあいなど理由は様々である)

ボランティアが関わるのは

少年法25条の規定
試験観察：処分決定のための必要がある場合に家庭裁判所調査官により行われるもの。

ボランティアの流れ

- ◆ ボランティア登録
 - 千葉少年友の会に登録します。年に1度、7月に大規模な説明会を行っていますが、個別にも対応しています。
- ◆ 家庭裁判所調査官からの依頼
 - あくまで審判過程の一環であるので誰でも参加できるわけではありません。調査官が、少年の年齢やニーズに合わせて学生ボランティアを選びます。
- ◆ ボランティア実施
 - 実際に少年に合わせて学習支援をします。教材等は少年が必ずもってくることになっているので準備はしなくて大丈夫です。基本的に高校受験を終えている子や高卒認定試験を自覚している子が多いです。
- ◆ 報告書提出
 - 審判の資料となるため報告書を作成し提出します。実施日と内容を記入するだけの簡単なものです。

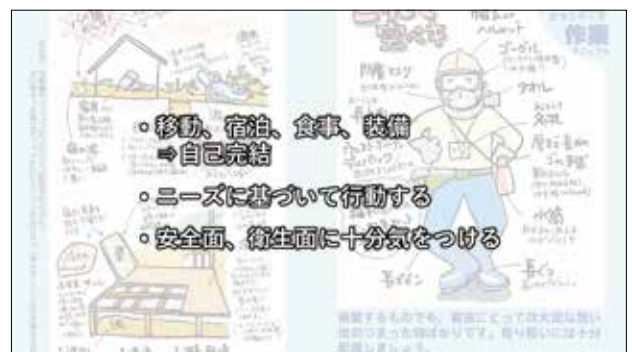
何故ボランティアなのか

- ◆ 少年法の目的
 - 「少年は、成人と比べて一般にまだ未成熟であり、また可塑性に富むため、犯罪を行った場合でも成人とは異なる処遇をする必要性と合理性が認められる。」(引出、2015)
- ◆ 繋がりを求めて
 - 墓々のような一般の人から肯定され受け入れられること、大学生という比較若い年齢である「私」が関わることで、少年の更生を手助けしていく。
 - ※裁判所外での少年との関わりは一切禁止されています。

ボランティアのやりがい

- ◆ 試験に合格した際、成績が上がった際。
- ◆ 少年の更正を手助けできること。
 - 少年や少年の保護者から感謝されること。
 - (私見)
 - 一歩進み踏み越えた少年を切り捨てるのではなく、社会全体で手を差し伸べて元の道に一緒に戻る。こういった取組に、社会の仲の一員として、参加できていることにやりがいを感じ、社会全体の利益に邁進して活動している。

発表者：青木宗一郎(理学部2年)



発表者：成川貴大(理学部数1年)



1日目

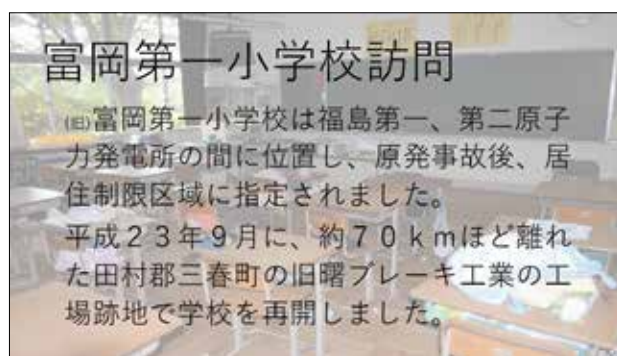
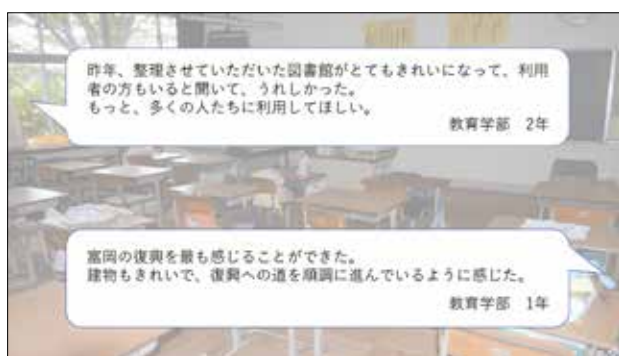
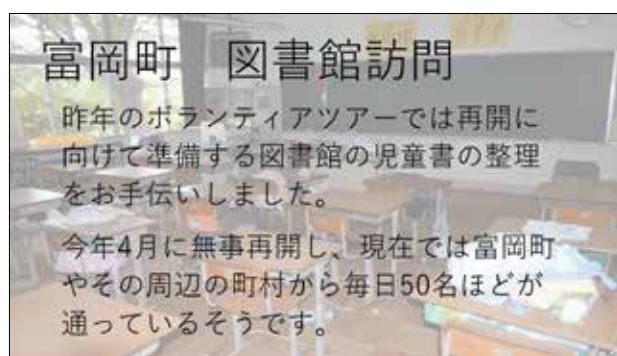
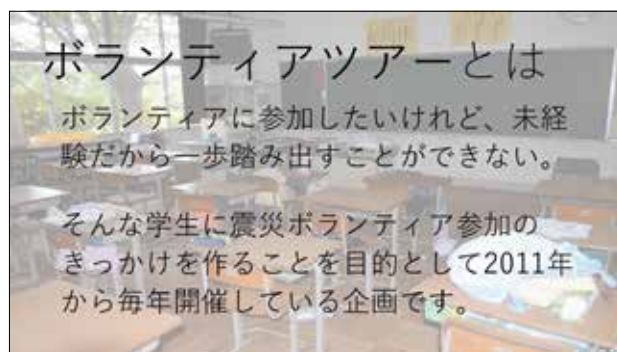
8:40	登校
9:45	スクールバス乗車開始
10:50	学校出発(スクールバス 大森コース)
11:30	朝食(NHKスタジオカフェ)
12:30	艦内見学
13:30	NHKスタジオパーク出発
14:50	国立オリンピック記念青少年総合センター到着
15:00	チェックイン
15:15	部屋に荷物を運び入れる 避難訓練・避難経路確認
15:30	開会式
16:00	検温 入浴
17:00	各部屋に移動し休憩
18:00	夕食
20:30	就寝準備
21:00	就寝

2日目

6:15	起床 検温 洗面 部屋の片付け 荷物整理
7:15	朝食
8:15	歯磨き 荷物整理
9:00	出発
10:00	参宮橋(小田急線)→新宿(丸の内線)→ 新宿三丁目(副都心線)→多摩川(多摩川) →武蔵新田→学校
11:10	学校着
11:20	開会式
12:00	学校で朝食
13:00	下校準備
13:40	下校



「東北ボランティアツアー」発表スライド



千葉大学は、当時の校長先生が千葉大学教育学部出身であった縁から遊具を寄贈したり、運動会の運営をお手伝いしたりしています。
 昨年4月富岡町の一部で制限区域が解除され、今年4月に(仮)富岡第一中学校にて富岡小学校は再開しました。

概要

児童数 14名
 複式学級(2つの学年を1つのクラス)
 少人数を活かした「極少人数教育」を掲げており、地域社会とも連携して、児童全員が成長できるような学校経営を特徴としています。

岩崎校長先生による富岡の復興のお話



原発事故の影響が分かったのは翌日でした



現在の小学校の教育方針についてのお話。



避難訓練では2km離れた山まで駆け上るそうです

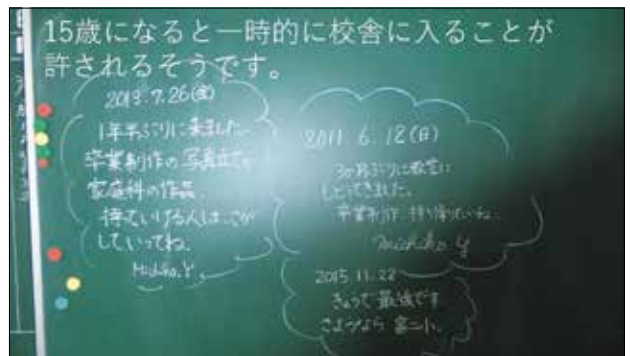
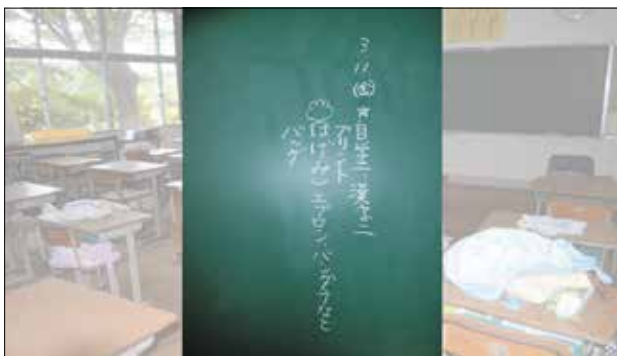
自らも被災を経験し、自宅へ帰ることがままならないという状況で教育や復興の第一線で尽力されている方のお話を聞くことができたことはとても良い経験だった。
 法政経学部 4年

児童数は少なくても、極少人数ならではの教育方法などを摸索していることが分かり、富岡小で学べることは子どもたちにとってプラスになる部分が多いと感じた。
 法政経学部 3年

富岡第二小学校見学

(仮)第二小学校は今も居住制限区域に指定されています。
 片付けも進んでいない部分があり震災当時のまま残されています。







富岡第二中学校体育館見学

(注)第二中学校体育館は震災当日から原発事故により全町避難となるまで避難所として運営されていました。



保健室から持ち出したベッド



富岡二小・二中は非日常で、でも子どもたちの日常が見えて、何か矛盾というか、異質なものを感じた。

文学部 1年

もし自分がその場所にいたら…ということを考えた。くつやランドセル、上着、卒業記念品がそのままになっていて当時の危機的状況が伝わってきた。

教育学研究科 1年

二日目

富岡小学校・中学校の子どもたちとの交流を通じて、私たちも極少数教育のお手伝いをします。

また、少人数であるが故に普段は手の回らない場所を片付けさせていただきました。



朝の会

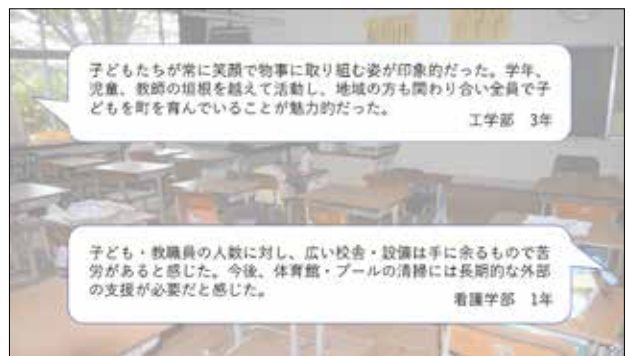




千葉大と富岡小学校の関わりについての授業



最後は笑顔でお別れました

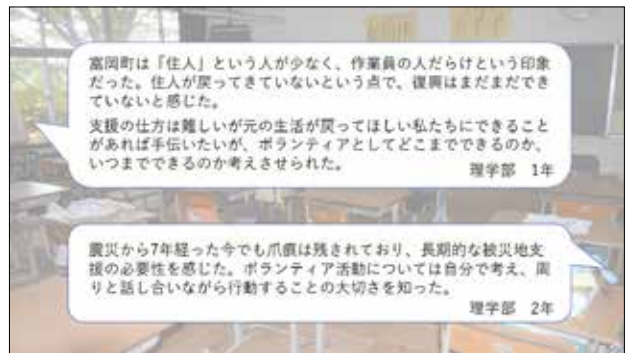


子どもたちが常に笑顔で物事に取り組む姿が印象的だった。学年、児童、教師の垣根を越えて活動し、地域の方も関わり合い全員で子どもを町を育んでいることが魅力的だった。
工学部 3年

子ども・教職員の人数に対し、広い校舎・設備は手に余るもので苦勞があると感じた。今後、体育館・プールの清掃には長期的な外部の支援が必要だと感じた。
看護学部 1年



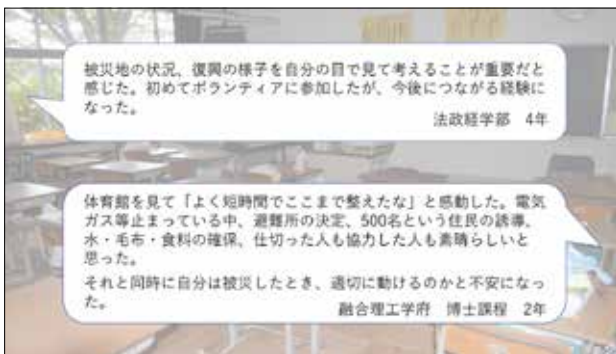
ボランティアツアーを通して感じたこと



富岡町は『住人』という人が少なく、作業員の人だらけという印象だった。住人が戻ってきていないという点で、復興はまだできていないと感じた。

支援の仕方は難しいが元の生活に戻ってほしい私たちにできることがあれば手伝いたいが、ボランティアとしてどこまでできるのか、いつまでできるのか考えさせられた。
理学部 1年

震災から7年経った今でも爪痕は残されており、長期的な被災地支援の必要性を感じた。ボランティア活動については自分で考え、周りと話し合いながら行動することの大切さを知った。
理学部 2年



被災地の状況、復興の様子を自分の目で見て考えることが重要だと感じた。初めてボランティアに参加したが、今後につながる経験になった。
法政経学部 4年

体育館を見て「よく短時間でここまで整えたな」と感動した。電気ガス等止まっている中、避難所の決定、500名という住民の誘導、水・毛布・食料の確保、仕切った人も協力した人も素晴らしいと思った。それと同時に自分は被災したとき、適切に動けるのかと不安になった。
融合理工学府 博士課程 2年

H30.4 ふれあいの環通信

GCAP



4月3日12時～17時
4日10時～17時
6日10時～12時

総合学生センター
開校・新生活の不安と疑問を学部の先輩に相談できる！

2018年4月3、4、6日に、「新入生サポーター会」をふれあいの環にて開催しました。大学では単位の取得方法や課外活動が高校と異なるため戸惑ってしまう新入生は少なくありません。そうした新入生を先輩である学生スタッフがサポーターするのが「新入生サポーター会」です。

新入生サポーター会を開催しました

例年4月に学生コミュニティ支援団体GCAPが実施しており、今年も多くの新入生からの相談内容が履修についてが最も多く、次いでサークルやバイトなどの学生生活について、また、留学や各種資格についての質問もありました。



▲学生スタッフと話す参加者

ふれあいの環

H30.5 ふれあいの環通信



富岡小学校運動会を支援しました

2018年5月25、26日に、福島県富岡幼・小・中学校合同運動会を支援しました。今年も三春町で再開していた富岡小学校三春校と、本年4月から富岡町にて再び開校された富岡校との合同開催となりました。このボランティア参加する学生には、事前研修を実施しました。富岡町出身で教育学部教授の片岡洋子先生にお越し頂き、富岡町の基本的な情報や震災からの流れ、子ども達の状況などを解説して頂きました。



▲片岡先生の講義を聞く参加者



▲児童と交流する学生



▲五入れの補助をする学生

運動会前日となる25日には、校舎見学や児童との交流を行いました。運動会当日は、競技の準備や審判などの運営補佐を行いました。また、学生も赤白の2チームに分かれ、競技への参加や応援などで、運動会を盛り上げました。運動会支援も今年で7回目となりました。富岡小学校とはしっかりと絆が深まっています。

ふれあいの環

H30.7 ふれあいの環通信



ボランティア報告会&カタリベカフエを開催

2018年7月3日に、「ボランティア報告会」と「カタリベカフエ」をふれあいの環にて同日開催しました。ボランティア報告会は、ボランティア経験のある学生が自らの体験を語る講演会です。ボランティアに興味のある学生を対象としたイベントで、経験談を聞いてボランティアへの意欲を高めてもらうことが、未経験者の不安を解消することが主な目的です。



▲ボランティアの報告を聞く参加者



▲ボランティアについて語り合う参加者

「カタリベカフエ」は、あるテーマのもとで参加者同士が語り合うイベントです。学部・学年・学生・教職員の枠を超えて様々な価値観を持つ人々が語り合い、考えや意見を共有することを目的としています。今回のテーマは、「ボランティアの魅力とは？」でした。

ふれあいの環

H30.9 ふれあいの環通信



バリアフリーマップを作成しています

チャレンジドサポーターのみでは、車椅子を利用して移動するなどの移動に手助けが必要な学生のキャンパスライフをサポートするため、大学構内のバリアフリー情報を紹介するマップを作成しています。主にスロープや多目的トイレ、自動ドアなどをまとめています。制作にあたっては実際に車椅子を使用、または車椅子使用者とともに大学構内を回り、スロープが利用できるか、設備が利用可能かを調査します。スロープがあっても介助無しでは上れない急な斜面や、車椅子が入る幅のないエレベーターなど、あることと実際に使えることは別問題となってくるため、車椅子を使った実践や、使用者の所見などを大切にしています。



▲構内のバリアフリー施設を調査する学生

現在は主に西千葉キャンパスのマップ化を行っています。今後はさらにマップの範囲を広げていくとともに、手頃なマップを使う環境を整えていきたいと考えています。

ふれあいの環

東北復興支援ボランティアツアーおよび富岡町立小・中学校支援活動について

2011年3月11日、東日本大震災が発生。被災地では救援・復興活動が行われ、現在においても様々な支援が必要とされています。千葉大学では、学生支援の取り組みとして、ボランティア活動を希望する学生を支援することを目的に、毎年、学生支援課学生支援センターのピアサポート学生スタッフと共に、ボランティアツアーを企画・運営をしています。又、千葉大学教育学部(OB)の支援要請をきっかけに、福島県双葉郡富岡町の小学校・中学校の生徒の行事支援を継続的に行っています。

千葉大学 学生支援センター主催 東北復興支援ボランティアツアー開催の軌跡

回数	年月日	活動場所	主な活動内容
第1回	2011年8月4日～8月7日	宮城県気仙沼市	瓦礫撤去、漁網の解き
第2回	2011年9月22日～9月25日	宮城県南三陸町	瓦礫撤去
第3回	2012年8月30日～9月2日	宮城県南三陸町	瓦礫撤去、除草作業
第4回	2013年9月26日～9月29日	福島県南相馬市小高区	家屋内清掃、除草作業
第5回	2014年9月10日～9月13日	福島県南相馬市小高区	家屋内清掃、除草作業
第6回	2015年9月10日～9月13日	福島県南相馬市小高区	家屋内清掃
第7回	2016年6月24日～6月26日	宮城県南三陸町、 福島県南相馬市小高区	被災地見学(宮城)、除草作業(福島)
第8回	2017年9月29日～9月30日	福島県双葉郡富岡町	図書館での書籍清掃・書籍整理、 お祭り運営補助
第9回	2018年9月20日～9月21日	福島県双葉郡富岡町	体育館やプールの清掃、 被災地見学(福島)

福島県双葉郡富岡町立 富岡小・中学校等との交流の軌跡

2011年	3月11日	東日本大震災
2012年	1月31日	当時の富岡第一小学校校長先生を招いた講演会
	2月 2日	小学校豆まき集会の活動支援
	5月18日、19日	運動会の活動支援
	7月11日	富岡中学校「国際理解講座」の活動支援
	8月22日～24日	富岡町主催「小学校・中学校の再会のつどい」の活動支援
2013年	12月27日、28日	福島県主催「富岡町立小学生の再会のつどい」の活動支援
	2月 1日	小学校豆まき集会の活動支援
	5月17日、18日	運動会の活動支援
2014年	8月 7日	富岡町主催「小学校・中学校の再会のつどい」の活動支援
	1月31日	小学校豆まき集会の活動支援
	2月22日	小学校「児童と過ごす東京ディズニーランド」の活動支援
	4月18日	小学校「千葉大学柏の葉キャンパス植物工場見学」の活動支援
2015年	5月23日、24日	運動会の活動支援
	1月30日	小学校豆まき集会の活動支援
	5月22日、23日	運動会の活動支援
2016年	1月29日	小学校豆まき集会の活動支援
	5月27日、28日	運動会の活動支援
2017年	2月 3日	小学校豆まき集会の活動支援
	5月26日、27日	運動会の活動支援
2018年	2月 2日	小学校豆まき集会の活動支援
	5月25日、26日	運動会の活動支援
2019年	2月 1日	小学校豆まき集会の活動支援

学生ボランティア支援団体C-vol
学生コミュニティ支援団体GCAP

チャレンジド・みのり

ノートテイク会

学生キャリア支援団体Career port
千葉大学CISG(国際学生会)